



岐大通 2013

2013 J.League Division2

第1節 モンテディオ山形 戦

4/28(日) 13:00~

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

F C岐阜大好き通信(岐大通)

4/28号

編集発行:『岐大通』製作委員会

今号の製作担当:

ささたく & 吉田鑄造

today's guest : モンテディオ山形 2012 J2 16勝 13分 13敗 勝ち点 61 第10位

1984年に創設の『山形日本電気サッカー同好会』は、『NEQ山形』となって1993年の地域決勝で2位(優勝は日本電装)となるも入替戦でJFL2部8位の西濃運輸に敗れる。しかし、その後JFLからの撤退チームが出たために、同じく入替戦で敗れた日本電装と敗者復活戦が行われ、これに勝利して東北初のJFL昇格を果たす(ちなみに日本リーグ(JSL)時代にはTDK(現・ブラウブリッツ秋田)が1985-86年に参加している)。1999年の2部創設とともにJ2へ。隣県のベガルタ仙台との試合は“みちのくダービー”として激しい盛り上がりを見せる。2009年にJ1昇格。アウェー鹿島戦では「シュート0本」で敗れる不名誉な記録を残しつつ、開幕前の“圧倒的最下位”予想を覆してJ1残留を果たし、ホーム最終戦後に理事長が「ざまあ見やがれ」と挨拶して話題となる。2011年にJ1で最下位になり、昨年からはJ2。最高位は2010年のJ1・13位。Jリーグ加盟クラブの中では唯一「社団法人」が運営する(他は「株式会社」)。(吉田鑄造)

2013J2

順位表(暫定) 第10節
勝点、得失点差、得点、失点、
岐阜戦の戦績(岐阜から見て)

1 神戸	25p	+10	18	8	A
2 G大阪	20p	+10	18	8	
3 岡山	18p	+5	11	6	
4 長崎	18p	+2	12	10	
5 栃木	17p	+5	11	6	A
6 京都	15p	+7	17	10	H
7 山形	15p	+2	14	12	
8 水戸	15p	+2	11	9	
9 福岡	15p	+1	10	9	
10 千葉	14p	+7	14	7	
*11 東京V	14p	+7	11	4	A
12 愛媛	14p	+2	10	8	A
13 富山	14p	-3	9	12	H
14 徳島	13p	-1	13	14	H
15 札幌	13p	-1	10	11	
*16 松本	11p	-1	10	11	A
17 鳥取	10p	-7	8	15	
18 横浜FC	9p	-5	8	13	H
19 北九州	8p	-9	9	18	
20 熊本	7p	-6	7	13	
21 群馬	6p	-12	3	15	H
22 岐阜	5p	-15	4	19	---

東京Vと松本は1試合少ない

次回 HomeGame

第13節 ジェフ千葉戦

5/6(月・祝) 19:00

@岐阜メモリアルセンター
長良川競技場

今季初となる3連戦の初戦、4/14松本戦で待望の今季初勝利を挙げたものの、続く富山戦、栃木戦と連敗してしまったFC岐阜。富山戦では終盤に2点差を追いついたのにロスタイムで突き放され、栃木戦も前半終了直前に失点するなど、非常にもったいない失点が相次いで敗戦だった。当然、最下位は脱出できていない。ただ幸いなこと(?)に、他の下位チームも勝ち点を積み上げられていない。勝ち点差3以内に3チーム(19位以下)がいるという状況ではあるが、それに甘んじて良いはずがない。少しでも多くの勝ち点を積み上げることが求められていると思う。

さて、今節の対戦相手はモンテディオ山形。前節は雪のNDスタジアムで熊本を相手に勝利を納めたが、その前は3連敗しており、現在は7位だ。しかし、その3連敗のうち2敗は神戸(現在1位)とG大阪(現在2位)であり、調子を落としているチームと見るのは誤りだろう。山形は一昨年まではJ1在籍のチームであり、昨年も(後半は失速したものの)リーグ前半は首位争いをしてきたチームだ。奥野監督2年目体制で、チームの習熟度も増しているだろう。水戸から今季新加入の#24MFロメロフランクは既に3を挙げる活躍をしており、油断できるはずがない。とはいえ、山形との通算対戦成績は2勝1分2敗、ホーム戦でも1勝1分1敗と互角の成績を納めており、相性は悪くない。なにより、岐阜は2008年にJリーグに参入して、初勝利を山形のホームNDスタジアムで挙げたという経験を持っている。

今年のFC岐阜は、怪我人が多いのが何よりも気にかかる。#5DF関田は復帰したものの、4/17の富山戦で#8MF李漢宰が全治3~4週間の負傷で戦線を離脱してしまった(他にも、#7MF地主園秀美は昨年の骨折で長期リハビリ中、#14FW井上平は右膝手術)。残念ながら十分に選手が揃っているとは言えないチームで、レギュラー陣が誰か負傷で欠場している状況では、チーム事情が厳しくなるのも無理はない。そのため、(23歳以下の選手がカテゴリーが下のチームに移籍する場合は移籍期間の制限が撤廃される今年からの制度を利用して)4/10に清水から#27FW樋口寛規、名古屋から#28MF水野泰輔を期限付き移籍で獲得し、さらに4/18に清水から#29MF柴原誠を獲得して、戦力の増強を図ったFC岐阜。しかし、(昨年も岐阜にいた樋口は別としても)新しく合流した選手がチームに融け込むまでには時間がかかるだろうし、彼らの活躍に期待するだけでは駄目だ。今までチームに在籍していた、スタメン外の選手たちの奮起を促したい。全員が激しいポジション争いをする事で、チーム全体を活性化させることが、現在停滞しているチームの調子や順位を上昇させるためには必要ではないだろうか。

また、7試合連続無失点で得点力不足が深刻な問題となっていたが、第8節、第9節と2得点を挙げる事ができ、その点については、サポーターは(あるいは選手までも)不安を少しなりとも解消できただろう。ただし、まだまだフィニッシュの精度の甘さ・決定力不足は感じられる。このため、今節は誰を前線のスタメンに起用するのか、行徳監督の采配に期待したい。

4月中旬の3連戦後、1週間を挟んで再び突入するGW3連戦。おそらく今シーズンで最も過密日程であるこの時期、しかし、チームの勢いを上昇させる最も良い時期でもある。この3連戦を上手く乗り切るためにも、今日の初戦は重要だ。最後まで戦う気持ち、諦めない勝利への執念がとても大事になる一戦。みんなの力で、スタジアム全体の力で、選手を後押ししよう。(ささたく)

投稿募集!

gidaidohr@hotmail.co.jp

【第9節】岐阜2-3富山

まさに劇的な幕切れ。最後のワンプレーでの失点。文字通りのサヨナラ負け……。実際にはそれから1分くらい試合は続いたのだけれど、そんなイメージが残ってしまうような衝撃。残り10分を切ったからの同点劇。しかも、1点差に迫る追撃の今季ホーム初得点の後に与えた絶体絶命のPKを、またしても守護神が止めきった直後の同点弾。ゴールを決めたのは中島とデズという共にJリーグ初得点。オマケにデズはバースデー・ゴール。そして、PKを蹴ったのは「また、朝日か！」とイヤになるくらい、ウチとの試合になると暴れる朝日だったというオチもつき、なんとというか、これでもか！というくらいに新鮮で贅沢なネタが詰まった盛りだくさんな内容。久しぶりの長良川劇場が復活し、スタジアムは興奮のるつぼと化していたし、土壇場で勝ち越しゴールを奪われても最後まであきらめず選手もスタンドも戦っていたけれども、終了後にはあまりにも急転直下の展開に、なんとも言いようのない思いが募ってしまうのはやむをえないよね。

ただ、この試合のシュート数は4対13。ウチは富山の三分の一。シュートの危険度も決定機の回数も富山に軍配が上がるのは誰もが認めるところだろう。幸か不幸か、ボク自身は仕事が終わってから駆けつけたために後半キックオフからしか観戦できなかったけど、後半30分までの状況から推察するに「これを前半から見てるのはツラかったんじゃないかな？」という内容。富山の組織的プレスというか、ボール保持者に対してあらゆる局面で数的有利を作り出す戦術に対応しきれず、逆にボールを奪うと何人もが前線に飛び出し、ウチのディフェンスを翻弄するという内容は、もう歯がゆくてしょうがなかった。そんな展開でも、残り10分で同点に追いつくのと、サッカーは何が起こるのかわからなくて楽しい。当然、この試合のように、アツというまに奈落の底へ落とされることもある。45分+アディショナル・タイムの短い時間だったけど、サッカーというスポーツの醍醐味。楽しさ、怖さをまたもや思い知らされた試合だった。いや、本音はムチャクチャ悔しいんですけどが(苦笑)。

それでも、むりやり都合をつけてスタジアムに来てよかった。おとなしく、キックオフから自宅でビール片手のTV観戦という選択肢もあったけど、やっぱり現地の熱気は最高だ。TVでだって中島やデズのゴールも、時久のPK阻止も興奮できるだろうけど、ライブで立ち会ったらそれは倍増どころの騒ぎじゃない。何が起こるかわからない。その一瞬を、そして応援するクラブの勝利をおなかいっぱい堪能するためにできる限りスタジアムに行く。その思いが止まらなくなって久しい。でも、欲しいのはなんといってもホームでの勝ち星だよなぁ……。(ぐん、)

【第10節】栃木2-0岐阜

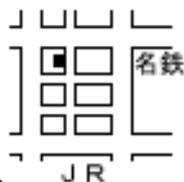
「もう、早く開幕してほしいよ。こんな寒い中での観戦はゴメンだ。春はまだか？」という幻想に駆られるくらい寒かった栃木グリーン・スタジアム。真冬の2月並みの天候で、遠征仲間が雪の上越道を避けての行軍というアウェイの洗礼。試合前に雨が上がったことだけはありがたかった。試合が終わった後には太陽も顔を出して少しは暖かくなってきたものの、これがゴールデン・ウィーク前とは思えないような空模様。

そして、われらがFC岐阜の試合内容も似たようなもの、といったら辛辣すぎるかな？でも、前節の富山戦同様、組織的な戦術や攻守の切り替えとかは悔しいけど栃木の方が数段できがよかった。なんといっても、栃木の攻撃は最前線でFWがボールをキープできる、いわゆるポストが効いているため攻撃に人数が掛けられるし、トップからサイドへボールを散らすことによって守備網を薄くできる。縦へのクサビのパスとサイドチェンジ。ピッチの縦と横をしっかり使っているために、攻撃に幅と厚みが感じられたような気がするが、たぶん思い違いではないと思う。栃木相手にこんな感想を漏らすのは正直おもしろくないんだけどな(苦笑)。

そのうえ、前半をスコアレスで折り返すことができれば上出来、と思っていた矢先の失点。そのうえ、後半開始直後に追加点と、サッカーでやってはいけないタブーを立て続けにやってしまっただけで勝機が遠のくのも仕方がない。まあ、あのFKは敵ながらあっぱれ。時久はよく触ったよ。ファールの判定は微妙だったと、ついつい愚痴も出てしまうが、これも今の悪い流れが断ち切れていないせいなのかな？後半途中まではほとんどイイ場面がなくて、まるで前節のリプレイを見ているような感じがしたが、やはり試合には流れがあって後半終盤には栃木ゴールを脅かすようなシーンも作れた。残念ながら、富山戦とは違いゴールを決められず0-2の完封負け。シュートも撃ったが、強いシュートは枠を外れ、枠内の飛ぶシュートはGKの正面か、勢いが足りないものばかりではゴールをこじ開けることはできない。もっともっと、シュート練習をしてもらおうしかないな。

あと、新戦力の柴原が移籍即スタメンだったけれども、残念ながら前評判通りの才能を発揮するまでには至らなかった。彼が、自分の得意な形でボールを持つ場面もほとんどなかったからしかたがないか。移籍即スタメンは監督の期待の表れだろうが、合流して2、3日では周りとの連携するのは難しい。公式試合を連携を深める場にするのは正直好ましいとは思っていないが、真剣勝負を重ねることによってでしか得られないこともあるだろう。今後は実戦練習を積んで一刻も早く才能の片りんを発揮してほしいし、他の選手にも刺激を与えてもらいたい。とにかく、岐阜の選手がもっともっと躍動する姿を見たい。そのために、山形戦も全力で応援します！(ぐん、)

「いらっしゃいませ」より
「おかえりなさい」が似合う
アットホームな韓国料理店。
『チヂミ屋』は
JR岐阜・名鉄岐阜駅から
徒歩3分。
休：火曜(定休日が変わりました！)



【コース】HondaFCコースに勝った！

我らがFC岐阜コースU-18(以下FC岐阜コース)は今年県内のリーグ戦であるG1リーグで戦っていますが、それと同時平行で4月からクラブユース選手権の一次予選の試合が今年も始まりました。昨年までのクラブユース選手権は1次予選 2次トーナメントと進み、2次トーナメントで決勝に進んだ2チームが全国大会に出場していました。でも今年からレギュレーションが変更され、

「リーグ戦の1次予選の上位3チームが勝ち抜け」

「清水・磐田・名古屋のJ1のコースチームと1次予選上位3チームがそれぞれ対戦」

「勝った3チームが決勝リーグへ進出」

「決勝リーグの上位2チームが全国大会に出場」

となりました。つまり昨年までは1次予選を1位か3位で通過すると決勝リーグで一度J1のコースチームに勝てば(それ自体が難しいんですが、苦笑)全国大会に出場する事が出来ましたが、今年からは何度も勝たなければ全国大会に進む事が出来なくなりました。

まあ、それでも我らがFC岐阜コースが全国大会に出場できる数少ないチャンスの一つなので、選手・チーム・父兄も俄然気合が入る大会です。その初戦となるHondaFCコースとの対戦が4月21日(日)に名古屋商科大学で行われたので、観戦に行ってきました。

HondaFCコースは一昨年コースチームの廃止方針を打ち出したので、今年は在籍が3年生だけになりひょっとしたら今年はお出でしてこれないかも?と心配していましたが、無事出場して来てくれました。このこと自体は個人的にはとても嬉しかったです。FC岐阜コースのHondaFCコースとの去年の対戦成績はクラブユース選手権1次予選は1対1の引分け、2次トーナメントでは1対2の敗戦で通算成績はFC岐阜コースの1分1敗であり、この点ではリベンジを期待していました。一方、前週にG1リーグ初戦で各務原高校に0対3で敗戦した我らがFC岐阜コース。私自身は観戦しておらず伝聞でしか状況が判りませんので、選手達のメンタル状況が心配ではありました。

前半はFC岐阜コースのボールでキックオフ。この日朝まで降っていた雨はすっかり上がっており、ピッチも人工芝のグラウンドの為に影響は特にありませんでしたが、風がとても強く、この点はプレーにも大きな影響が出てました。

前半はHondaFCコースが風上、FC岐阜コースが風下となりました。序盤から中盤でのボールの奪い合いが続き互角な展開となります。ただHondaFCコースは風上の利点を生かしきれなかった印象でした。結局前半は0対0のスコアレスドローで折り返しました。

後半はHondaFCコースのボールでキックオフ。前半は風下で我慢の時間が長かったFC岐阜コースが後半は相手陣内に押し込む時間が長くなりましたが、後半20分過ぎまでは何度かの決定機を決めきれませんでした。それでもFC岐阜コースは風を考慮してグラウンダーのボールをゴール前に供給し続けてついに後半22分頃にゴール!!先制する事が出来ました。

それからFC岐阜コースが相手陣内でプレーする時間が長く、一方のHondaFCコースもボールを持つとカウンター狙いで一斉に前線に人数をかけてゴールを目指すプレーの繰り返し。息詰まる展開が続きますが、後半34分頃にコーナーキックからのセカンドボールの奪い合い中に冷静にシュートを決めてFC岐阜コースが追加点!!2対0とリード

を広げる事に成功しました。その後も互いに相手ゴールを目指す攻防が続きましたが、そのまま試合終了。見事FC岐阜コースが勝利を収める事が出来ました(嬉)。そして去年までは苦戦していたHondaFCコース相手に堂々たる試合をする事が出来たFC岐阜コースの選手たちがとても頼もしくも有りました(嬉涙)。

今後の試合日程は、クラブユース選手権の1次予選では4月28日(日)に尾張クラブ、5月5日(日)に愛知FCとの対戦があります。この2チームとの対戦も勝つて是非1次予選の1位突破を目指しましょう!一方のG1リーグは5月6日(月・祝)に中京高校と対戦します。中京高校は昨年度のG1リーグで優勝した強豪チーム。決して簡単な対戦相手では有りませんが、勝利目指して頑張れよ。

頑張れよ!応援しているから!!

FORZA!FC岐阜コース!!

(シュナ)

岡田歯科医院

岐阜市加納新本町 1-23
tel:058-273-8998



本庄工業株式会社

<http://www.honjp-woodream.com/>

ALADDIN

何も無い店だけど・・・

心の花が咲く・・・

何も無い店だけど・・・

心癒される・・・

忘れかけていた喫茶店がある

岐阜市昭和町3丁目(木ノ本公園東)

